



アジア史コース連続講演会

コース選択前の一年生、必聴

アジアを語れる国際人になろう

アジアを、読みとけ
アジア史コース

第1回講演

「陸の風、海の匂い——

ユーラシア比較都市史の旅」

講師 妹尾 達彦 氏(中央大学教授)

日時:6月13日(木)14:45—16:15

会場:31-104教室

●講演要旨●

講演者は、1974年秋から75年春にかけて、大学を休学してユーラシア大陸横断の旅に出た。バンコクからインドを経て陸路でロンドンに到着した4ヶ月少しの旅の経験は、その後の私の人生を決定づけた。その旅で感じたユーラシア大陸の歴史への疑問の一つの答えを、昨年出版した拙著『グローバル・ヒストリー』(中央大学出版部、2018年)で記している。本講演では、同書での講演者の歴史認識を紹介しながら、ユーラシア大陸の魅力に満ちた都市の街衢の数々を、みなさまと一緒に散策してみたい。

●妹尾達彦(せお・たつひこ)●

立命館大学文学部史学科東洋史専攻卒業、大阪大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学(1983/03)、北海道教育大学釧路校助教授、筑波大学歴史・人類学系助教授、ハーバード大学招聘研究員をへて、現在、中央大学文学部教授(2000/04～)。陝西師範大学客員教授、ケンブリッジ大学セント・ジョンズカレッジ訪問教授、台湾清華大学客員教授、台湾大学客員教授、北京大学大雅堂訪問教授等を歴任。



第2回講演

「歴史を見つめる

新たな視点を」

講師 渡辺 延志 氏(ジャーナリスト)

日時:6月24日(月)16:30—18:00

会場:31-307教室

●講演要旨●

歴史をどう見るかをめぐり確執、葛藤がたえない。なかでも日本と韓国の間では深刻の度を深め、その関係は国交正常化以来最悪とも指摘されている。なぜ分かり合えないのだろう。問題の淵源がどこにあるのかを探るために、私たちは何を知っているのかを振り返り、知っていると思っている歴史はどのような来歴を経て今日に到っているのをたどりたい。歴史を学ぶ意味を考え、歴史を見つめる新たな視点を模索してみたい。

●渡辺延志(わたなべ・のぶゆき)●

ジャーナリスト。歴史を主な取材対象とし、歴史資料を独自に発掘し解説する作業を進めている。著作に『虚妄の三国同盟』『軍事機密費』(ともに岩波書店)、『神奈川の記憶』(有隣堂)がある。1955年福島県生まれ。早稲田大学政経学部卒。元朝日新聞記者。



ご連絡はアジア史コース室(39号館4階) ☎03-5286-3703まで